



札幌にゆかりの名前がついた身近な生きもの

明治時代、北海道には生きものの研究者が多く訪れ、研究の過程で札幌で「発見」されたことにより、札幌にちなんだ名前が付けられた動植物もあります。

今回は、旭山で身近に見られる4種類を紹介します。

サップロフキバツタ

(写真は上から紹介順です)

「札幌」と名がつくこのバツタは、初夏から秋まで見られます。

北海道にのみ生息。体の縁に黒い筋が通っているのが特徴です。

サップロマイマイ

もうひとつ「札幌」、体の中央部に黒い筋が通っているのが特徴。

北海道にのみ生息。旭山でも多く見られますが、環境省レッドリストでは「準絶滅危惧種」に指定されています。

「札幌」の名がつくものは他に、植物のサップロスゲなどがあります。

モイワサナエ

藻岩山は、明治時代、札幌における生物研究の中心地でした。

このトンボの他に、植物ではモイワボダイジュ、モイワシャジン、モイワランなどが「発見」されました。

モイワサナエは沢沿いをふわふわ飛ぶやや小型のトンボで、初夏に見られます。北海道のみならず本州中部以北に生息しています。

ジョウザンミドリシジミ

定山溪では蝶が2種類、これとジョウザンシジミが「発見」されました。

ジョウザンミドリシジミは青光りする「ゼフィルス」の仲間では最も多く見られ、旭山ではつり橋周辺など何か所か多く出る場所があります。

北海道から本州の中国地方以北にかけて広く生息しています。

●「発見」と書きましたが、それまで本州などで知られていた種類と似ているけれど調べてみると違う種や亜種であると分かった、がより正しいと思われます。



レストハウスだより

緊急事態宣言解除と共にレストハウスも6月1日から通常通りに開放され、ご来園の皆様の休憩所としてご利用頂けることになりました。

ハウス内も感染予防対策を施し、テーブル間を広く取ってテーブルの椅子を対面2人掛けとし、テーブル中央に飛沫感染予防対策の透明プラスチック板を設けました。売店カウンターも同様に透明プラスチック板を設け、従来通りのテイクアウト商品の注文と品出し及び空容器の回収を行い、極力、お客様との距離を保ち非接触を心がけた対応をさせて頂いております。

トイレ、授乳室、休憩室の各テーブル・イス、売店カウンター廻りの定期消毒を励行し安心してご利用いただける環境づくりに心がけてまいります。

ご利用時にはマスクの着用をお忘れなく！ ご協力をお願いいたします。

7月からのおすすめメニュー：かき氷 350円

(イチゴ・メロン・ブルーハワイ・抹茶・カルピス)

今夏は低気圧と高気圧が一定周期で交互し定まらないものの気温は高めとの長期予報。かき氷が爽やかな涼味を運んでくれる気候に期待しています。

当売店のシロップ各種は、合成保存料・人口甘味料不使用の安心してご賞味いただけるシロップを使用しています。ぜひお立ち寄りください！



写真はメロン味

旭山野鳥メモ ⑮ノビタキ

ノビタキ Siberian Stonechat *Saxicola torquata* スズメ目ヒタキ科
夏鳥。旭山では春と秋の移動時期に1、2日見られるだけだが、野鳥観察者が増えた近年、春は毎年確実に園内での観察記録が出ている。

草原性の鳥、北海道では「畑のスズメ」と呼ばれるほど多い。春から夏の間、市内では茨戸川緑地公園で普通に見られる。

しかし、北海道の畑の多くは、明治時代に屯田兵により森林を開墾されたもの。森林には住まないノビタキは、明治以降、北海道に人の手が入ることによりむしろ増えた可能性が推察される(証拠はないが)。

新型コロナ外出自粛期間が終わり、この夏は富良野・美瑛にドライブや小旅行に行く人も多いのでは。

(右写真上=雄、下=雌 どちらも美瑛町内にて撮影)

美瑛の丘はノビタキ天国。畑や有名観光地どこに行ってもノビタキがいる。7月には幼鳥も出てきて、両親が幼鳥に餌を与えたり、近寄る人に対して警戒し呼びかけるように「ジャツ」と鳴く姿も見られる(そうされたらすぐに離れよう)。この夏の富良野・美瑛、風景だけではなくノビタキにも注目を！



7月の野鳥トピックス

野鳥についての詳しい情報はホームページの野鳥情報をご覧ください。森の家までおたずねください。

☆とりのようちえん＝今年も幼鳥が巣立ち、カラ類を中心とした野鳥の親子の混群「とりのようちえん」がそろそろ見られる頃です。

★アオバト＝6月中はミュンヘンの森の丘に毎日来ていましたが、そろそろ来なくなる頃です。声は7月中は園内でよく聞かれます。

★キビタキ＝森の家の周りに雄が1羽いついていてよく見られ囀りしています。

★ウグイス＝森の家の周りにいる個体は「ホーホケホキョ」といった感じで普通とは違う鳴き方をします。園内で数か所でまだ声がよく聞かれています。

★クロツグミ＝6月下旬から再び囀りがよく聞かれており、今月中には巣立ち幼鳥が見られるようになります。

★オオルリ＝6月中は谷から時々囀りが聞かれるだけでしたが、巣立ち幼鳥が出れば見られます。

★シマエナガ＝6月は観察情報がほとんどありませんでした。今年は近くで営巣しなかったのでしょうか。



ヒガラの幼鳥

旭山生き物ミニ図鑑 2020年7月 7月に見られる生きもの



エゾリス夏毛



ノシメトンボ(7月中旬以降)



コムスジ



オオミズアオ(蛾)



キマワリ



オオウバユリ



コウゾリナ(秋まで咲く)



ハエドクソウ



公式サイト

「アカゲラ通信」 第81号 2020(令和2)年7月5日発行

発行:(公財) 札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

住所:〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

連絡先:電話 011-200-0311(土・日・祝日10時~16時) FAX 011-200-0351

<http://www.sapporo-park.or.jp/asahi-yama/>